

和泉市史編さん委員会編

『和泉市の考古・古代・中世』

(和泉市の歴史6 テーマ叙述編I)

和泉市 二〇一三・三刊
A5 四九二頁 二〇〇〇円

本書は大阪府和泉市の発行する『和泉市の歴史』の一冊である。

本シリーズは「地域叙述編」・「テーマ叙述編」・「通史編」の三部構成になっている。

「地域叙述編」は、自然地形や歴史的経緯をもとに市域を五つに区分し、各々の歴史的特質を通時的に叙述する。一方、市域全体を対象に考古・近現代の各時代の特徴を論じるのが「テーマ叙述編」である。そして「通史編」は両者の総まとめとして位置づけられ、和泉地域の歴史的展開を追う内容となる。なお「資料編」については『和泉市史紀要』がその役割を担っている。

本書は「テーマ叙述編I」として、考古・中世の和泉市の歴史を描く。左の目次からはその内容の豊かさをうかがえる。

序 時代と地域の特徴を描く／1部 考古学からみた和泉 1 考古学からみた和泉の歴史的特徴(石部正志)、2 池上曾根遺跡と農耕文化の展開(乾哲也)、3 和泉黄金塚古墳とその時代(広瀬和雄)、4 泉北丘陵の須恵器生産と「陶邑」(千葉太朗)、5 和泉の古代集落と古墳(白石耕治)、6 水利からみた和泉市域の地域社会(岸本直文)、コラムI 群集墳の展開とその被葬者(白石耕治)／2部 和泉と

王権 1 茅渟県・日根県と和泉監(榮原永遠男)、2 古代和泉の宮と行幸(遠藤慶太)、3 茅渟県と珍県主(中林隆之)、4 物部氏と中臣氏(鷲森浩幸)、5 行基と和泉(古市晃)、6 古代和泉の開発(竹本晃)、コラムII 和泉の古代寺院(乾哲也)／3部 中世和泉の権力と地域社会 1 人びとの生活と社会の変貌(仁木宏)、2 中世の和泉国衙と荘園制(大村拓生)、3 和泉郡の在地領主(廣田浩治)、4 中世宗教の展開(大澤研一)、5 和泉の戦乱と政治(古野真)、6 和泉郡の村のなりたち(天野忠幸)、7 城と館(白石博則)、コラムIII 和気遺跡の中世建物群(灰掛薫)

以下、各章の内容を摘記したい。

1部は考古である。1章では市域の主要遺跡をとりあげ、古代和泉国の成立までを叙述する。特に市の北西に広がる大園遺跡は、和泉国府や和泉宮などの関連性も含め、今後の調査が注目される。2章は池上曾根遺跡などの集落遺跡の分析を通し、弥生時代の地域勢力の変遷を論じ、3章では「複数首長の共同統治」という観点から和泉黄金塚古墳を位置づける。4章は須恵器生産の大センターである泉北丘陵の大規模須恵器生産遺跡(陶邑窯跡群)と「茅渟県陶邑」(『日本書紀』崇神天皇七年八月条)との関係性を検討する。これらの窯跡は、中央政権の管掌下に吸収される窯と在地的な生産を継続する窯とに分かれ、「陶邑」との関連性は前者(高蔵寺地区と陶器山地区)に限って理解すべきと指摘する。5章は市域内の集落遺跡を、首長居館・古墳・渡来人などから多面的に分析し、6章では現在の水利関係を足がかりに、市内各地域の開発史を復元する。

続く2部は古代を扱う。1章では和泉の成り立ちを概観し、「茅渟県」と並存する「日根県」の存在や和泉宮（珍努宮）と元正天皇との強い結びつきを明らかにする。2章は行幸から和泉国の古代交通路を復元し、畿内でありつつ外国としての要素も併せ持つ同国の周縁性を析出する。3章では氏族系譜などから「茅渟県」の形成過程を示し、また仏教を軸に八世紀以降の和泉地域の氏族結合の様子を論じる。4章では和泉における物部氏と中臣氏を論じ、軍事や祭祀を通じた王権との古くからの結びつきを指摘する。5章は和泉出身の行基の活動の前提として、同地での仏教受容や神祇信仰・神仏習合の様相を明らかにする。6章では和泉国の開発を概観し、奈良時代前半期の行基の役割の大きさなどを指摘する。

3部は中世を論じる。1章は中世和泉を地域ごとに考察し、政治・経済の中心となる府中のほか松尾寺などの寺院社会等、個々に特色ある地域社会が展開することを示し、和泉のミクロコスモスとしての相貌を活写する。2章では、和泉が熊野への参詣路であったことから国衙勢力が温存され、荘園と公領が錯綜する状況が生まれたと指摘する。3章は地域社会の担い手として在地領主に着目し、「小粒」な領主の多い和泉の中世を叙述する。4章では寺院・宗旨ごとに仏教信仰と地域の関係を明らかにし、神社についても庄・郷の鎮守としてのかかわりが近世まで継承される様子を跡づける。5章では中世後期の和泉国支配の様相を、中央の政治史とからめながら概観する。6章は寺院を核としながら十三世紀後半に形成された自治的村落が、守護権力や堺の発達の影響を

受けつつも、近世村へと継続することを示す。7章では和泉市域の中世城館を、個別事例に即しながら概観する。

以上が概要である。「中央」の歴史展開に沿う叙述ではなく、人々の生活やその空間構築の歴史を解明するという本シリーズの試みは、ともすれば中世以前の歴史叙述に際しては難しいものと思われる。しかし本書はその困難を克服し、地域の特徴を捉え多様な和泉の姿をダイナミックに描き出している。是非一読をお奨めしたい。

（磐下 徹）